

ポルノか！芸術か！

世界中にセンセーションを巻き起した

《性》の告白！ついに公開される禁断の性書

製作・監督ジョセフ・ストリック／脚本ジョセフ・ストリック／ベティ・ボトレイ
リッパ・トーン■ジェイムス・カラハン■エレン・バーズティン■デビッド・バウアー

〈カラー作品〉

SEXの解放を描きつづける文豪ヘンリー・ミラーの傑作！

北回归線

きたかいきせん



パラマウント映画／C.I.C.配給



近日ロードショー！

丸の内東宝 (211)
6088

日劇
地下

北回帰線

《きたかいきせん》



パラマウント映画
C.I.C. 配給



■ スタッフ ■

製作・監督・脚本：ジョセフ・ストリック
脚本：ベティ・ボトレイ
作曲・指揮：スタンリー・メイヤー
原作：ヘンリー・ミラー

■ キャスト ■

ヘンリー・ミラー……………リップ・トーン
フィロモア……………ジェームズ・カラハン
モナ……………エレン・バースティン
カール……………デビッド・パウアー

■ ものがたり ■

パリ。カフェ・テラスでアメリカ人のグループ、フィルモア、カール、パンそれにフランス娘のジネットが談笑していた。そこへ来たのはヘンリー・ミラーだった。アメリカから妻のモナが来るのに金がないというのだ。仕方なくカールが金を貸し、無事にヘンリーとモナは抱き合えた。

ヘンリーはポリスを探してホテル代を借りると安宿に泊った。翌朝、光りの中で見るとモナの背中に南京虫がはついていた。二人はベッドを飛び出し、新しいホテルに移る事にしたが、モナは悪態をついてさっさと出て行ってしまった。

ヘンリーは暗い気持で街を歩いたが、そのうち性来の陽気な気分がもどって来た。あいかわらず友人たちの間を借金してまわり、女と交渉を持ちたりして過ごしていた。やがてヘンリーは友人が事故死した後を

性の解放を旗印に、その大胆な描写で本国アメリカや日本などで、ほとんどの著作が発禁になっていた文豪ヘンリー・ミラー。これは彼の処女作の映画化で、公開にあたっては数々の問題を起したセンセーショナルな作品である。監督は「ユリシイズ」のSEX描写で評判になったジョセフ・ストリック。主演のリップ・トーンはオフ・ブロードウェイ出身の演技派。映画の中ではヘンリー・ミラー自身に扮している。騒然たる話題の中の異色作である。

ついでヘラルド・トリビューンに勤めた。しかしヘンリーの女性遍歴と貧乏はかわらなかつた。

友人のラブレターを代筆して15ページも書いた男から女との間をとりもつようにたのまれたりした。やがて友人たちはパリに失望したと云って去っていったが、ヘンリーはタクシィの中からパリを見て思った。自分がいかにパリを愛しているかを。



原作者

ヘンリー・ミラー

HENRY MILLER

1891年生まれのアメリカ作家。ニューヨークに生れたアメリカ各地を放浪し、仕事をするかたわら小説を書きはじめたが、そのテーマとするSEXが露骨なためすべの出版を拒否された。故国アメリカに絶望した彼は1930年のはじめヨーロッパへ渡り、以後9年間パリに住みつめた。そして全く絶望の気持で書いた《北回帰線》（1934年）が出版されて評判となった。以後アメリカへ帰ったが、彼のほとんどの作品が発禁となっていた。1944年以降はサンフランシスコの近くに住んでいて、主な作品（南回帰線）（セクスス）ほか。